

ドイツの調べかた

東京都 公立学校教諭

1 世界の国々の調査 ドイツ

身近な地域、都道府県単位の調査に続いて国ごとの調査について学習する。実際には、見聞することが難しい外国について地図帳や統計資料、映像資料などを活用して調査する。ここでは、教科書の資料や地図帳を使った調査学習の例を中心に学習計画を示している。

この章の学習は、調査方法についての学習を中心としている。しかし、世界の地誌的な内容についてふれることができるのは、この章が中心となる。そのため、調査方法を学習しながらも地誌についてもふれ、基礎的な知識は身につけさせたい。

また、外国の調査であるので、インターネットなどを活用することも考えられる。しかし、インターネットにおける資料は、中学生が理解できるものばかりとは限らない。十分な事前指導をしたうえで活用させることが肝要である。

本書「中学生の地理 初訂版」では、外国の調査を3例示している。中国は、地域の違いに注目して調査する。アメリカ合衆国は、ほかの国との結びつきに注目して調べさせることが構成されている。3例目のドイツは、まわりの国との協力関係に注目して調査させる構成になっている。

ドイツは、ヨーロッパの中央部にあり多く

の国々と国境を接する国である。ドイツについて調査することは、ヨーロッパの国々の結びつきについて調べることになる。ヨーロッパの国々の結びつき、協力関係を調べることは、EUについて、その役割や働きについて調べることになる。国境を実質的になくして一つの国のような結びつきをもつ地域として学習に値する地域である。

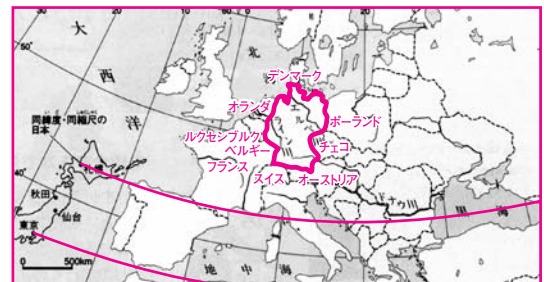
多くの国々が集まるヨーロッパの地域的な特色を国境線やドイツと他の国々を結びつける交通機関や環境問題などの調査作業例を組み込んだ学習計画を示す。

2 指導計画

第1時 ドイツの位置を調べよう。

ドイツやヨーロッパの国々の位置、ドイツと国境を接する国々の国名、日本との位置関係を調べる。

教科書p.121の白地図やワークを使って、次の作業を行う。



「中学生の地理 初訂版」p.121

①地図を見て、ヨーロッパの中のドイツの位置、ドイツと国境を接する国々、日本との位置関係を調べる。

首都ベルリンが、札幌よりも北にあることを確認する。東京と同じ緯度にどのような国があるかを調べる。

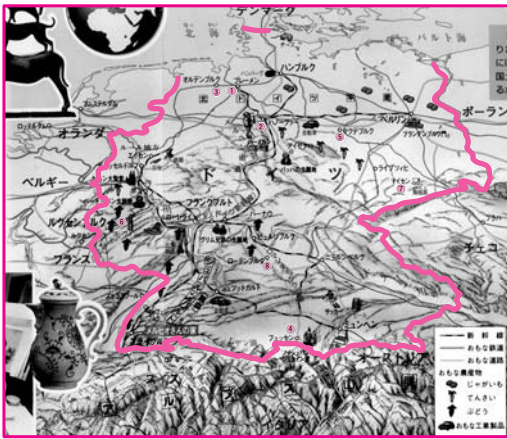
②ドイツと国境を接する国々の国名と首都名を調べ記入する。

③ヨーロッパのおもな川である。ライン川とドナウ川が、どのような国を通り、どの海に流れているかを調べる。

また、教科書折りこみ12を見て

①ドイツの地形を調べる。

[A][B]にあたることを地図中に線を引いて示す。地形の様子を中国やアメリカ合衆国と比較する。



「中学生の地理 初訂版」折りこみ12

②地図中の①～⑧の位置を確認して写真と見比べる。

③写真を見て気づいたことを発表する。

プレーメンやマイセンなどについて補説する。

○ここでおさえるべき基礎的事項

- ・ドイツの首都ベルリンの位置
- ・ドイツの国の形を描く
- ・周囲の国々の国名

・ドイツの面積、人口、人口密度

*発展的な作業

指導計画によっては、次のような作業を組み入れるとよい。

①トレーシングペーパーによる写し取る。

地図帳p.37～39を使って、ドイツ国内の様子を調べる。

トレーシングペーパーを使って、ドイツの国形やおもな都市（人口50万人以上の都市）、かつての旧西ドイツと旧東ドイツの国境線、おもな鉄道路線などを写し取る。

②日本列島の南北の距離をヨーロッパと比較する。

日本列島で九州から北海道に相当する距離にいくつの国があるかを調べる。ヨーロッパにいかにか面積が小さな国々が多くあるかを確認する。その際、世界の地域構成で調べた面積の小さな国、マルタやバチカン市国について復習するとよい。

③地図帳p.35～36を使ってドイツの地形を調べる。北部に北ドイツ平原が広がり、南部に向かって標高が高くなりアルプス山脈の位置を確認する（折りこみ12のドイツの地形と比較する）。

④時代によって国境がどのように変化してきたかを調べさせる。国境とは、固定的なものではなく動きがあるものであることや、どのようなところが国境になっているかを調べさせる。国境の変化によって、大きく面積が変わった国、国名が変化した国、新たにできた国、消えた国などを調べる。

第2時 人やものの結びつき

①ドイツとの国境

地図帳p.37～39を使って、ドイツとの国境を通過する道路や鉄道路線に○をつけて

確認する。



「中学校社会科地図 初訂版」p.37～39

- ②ハンブルクからブタペストへ(教科書p.122)
- ア 時刻表で赤字で示された都市を地図帳p.38で位置を記入する。
- イ EC173列車でハンブルクからウィーンへ行く鉄道路線を調べる。さらに、ウィーンからブダペストへ行く鉄道路線を調べる。
- ウ ハンブルクからブダペストへ行くまでに通過する国の国名を調べる。
- これらの作業をトレーシングペーパーに地図帳から写し取って調べさせるとよい。

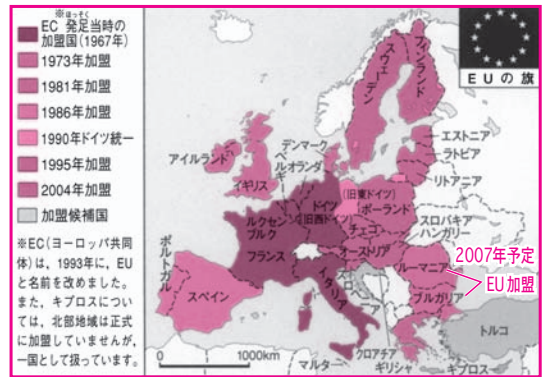
*発展的な作業

- ①折りこみ12の運河の様子を確認させ、地図帳p.38の中の運河を調べさせる。運河や河川によってドイツ国内や他の国々と強く結びついていることに気づかせる。
- ②地図帳p.149を活用して航空路による世界とドイツの結びつきの様子を調べる。

第3時 EUのあゆみとしくみ

ドイツを含むヨーロッパの国々の多くが加盟しているEUについて、ドイツと他国の結びつきの観点を中心に、そのあゆみやしくみを調べる。

その際、EU加盟国の面積を合計することや貿易相手国、輸出額、輸入額などを調べ、EU全体の大きさや規模に気づかせる。



「中学生の地理 初訂版」p.123

- ・現在のEU加盟国を調べる。
 - ・EU加盟国内でどのようなことができるようになっているかを調べる。
 - ・EU加盟の多くの国で共通に使える通貨であるユーロについて調べる。
- EU加盟国内を旅行したときの国境通過時のパスポートの扱いや検査について、EU以外の国の例と比較しながら補説する。国境通過の様子を示す映像資料などを用意するとよい。

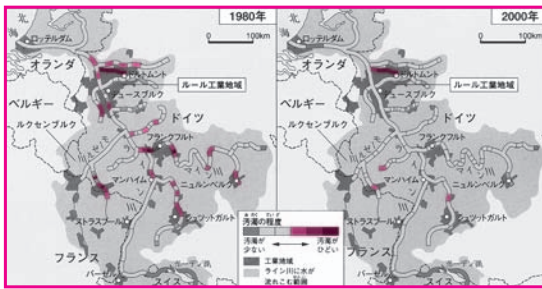
*発展的な作業

- ①ユーロが使える国やの今日の日本円とのレート調べる。
- ②ヨーロッパの国々が加盟しているEU以外の国際組織についてインターネットなどを活用して調べる。
- ③ドイツの貿易について調べ、EU加盟国内での地位や日本との貿易による結びつきについて調べる。
- ④イギリスとEUを結びつけるユーロトンネルについて位置や効果などについて調べる。

第4時 環境問題への取り組みを調べよう

多くの国々が国境を接し、ライン川、ドナウ川などの国際河川によって結ばれている国人では、環境問題に対して積極的な取り組みが見られることに気づかせる。

教科書p.124の③ライン川の水質の変化を使って次のような読み取りを行う。



「中学生の地理 初訂版」 p.124

- ①ライン川が通過する国々や流れ込む海の名前を調べる。
- ②ライン川が、国境になっているところを調べる。
- ③1980年の地図から水質の汚染がひどい地域を調べる。
- ④1980年と2000年の地図を見比べて、水質の変化について読み取る。
- ⑤国際河川の水が、流路の一か所で汚染された場合にどのようなことが起こるかを考えさせる。

*発展的な作業

- ①教科書p.125のドイツの人々が環境を守るために努力していることを読み、自分たちが生活する地域で環境を守るために実施している活動を調べる。
- ②EUに加盟している国やアメリカ合衆国など他の国が環境問題にどのように取り組んでいるかを調べる。
- ③世界の国々が協力して環境を守るために実行している京都議定書について調べる。

第5時 生活・文化について調べよう

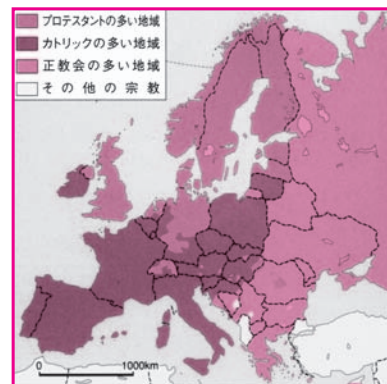
ドイツの生活・文化の特色を言語、宗教などを通して調べる。



「中学校社会科地図 初訂版」 p.125

- ①ドイツでは、どのような言語が話されているかを調べ、その言語が話されている国々を調べる。
- ②EU加盟国では、どのような言語が話されているかを調べる。
- ③第2時で調べた列車は、いくつの言語を話す地域を通過するのかを調べる。駅の案内板に複数の言語が示されている映像資料を示すとよい。

この作業を通してEUの人々が相互にコミュニケーションをとる難しさに気づかせるとともに、EU加盟国に生活する人々は、日常会話ならば3か国語程度はできる人々が多いことを補説する。



「中学生の地理 初訂版」 p.126

- ①ドイツやEU加盟国では、どのようなキリスト教が信仰されているかを調べる。
- ②宗派は違っていても同じキリスト教でEU加盟国が一致していることに気づかせる。
- ③地図帳p.125[2]世界の宗教を使って、ドイツと同じキリスト教が、世界のどの地域で

多く信仰されているかを調べる。

*発展的な作業

- ①簡単なドイツ語を調べる。英語の単語と比較する。
- ②EU加盟国内で複数の言語を話す人々がいるベルギーなどの様子を調べる。
- ③日本で親しまれているドイツの音楽や文学、ドイツの工業製品などを調べる。(教科書p.127「ものだけではない結びつき」を参考にする。)

第6時 ドイツを調べてわかったことをまとめよう

ここでは、この調査学習のまとめとして、新聞形式でまとめる方法を示している。B4やA3など同じ大きさの紙にまとめさせるとよい。その際、以下のような条件を守らせて作成させるとよい。

- ・地図を使用すること。
- ・統計資料やグラフを活用すること。
- ・写真は、コピーしたものを活用することは可能であるが、使用許可を得ること、出典を明らかにすることに注意すること。
- ・授業で学習した内容を活用すること。



ドイツを調べる学習の評価は、次のような観点ごとの基準が考えられる。

●関心・意欲・態度

授業中の観察や作品の分析などで以下の観点で評価する。

- ・ドイツやEUに関心をもち、それらの地理的事象について積極的に調べようとする。
- ・授業中の課題に意欲的に取り組んでいる。
- ・ドイツ新聞などの課題に意欲的に取り組んでいる。

- ・授業で扱った内容を踏まえて、自分で興味をもった事項を調べる。

●思考判断

授業中の質問やペーパーテストなどで以下の点について評価する。

- ・国境を接する国々と日本とは、どのようなことが違うのかについて考察する（歴史や結びつきの点から考察する）。
- ・EUの意義と役割について考察する（ヨーロッパに多くの国が、各国独自の通貨や政治のしくみがあった当時と比較して考察する）。
- ・EUの国々が環境問題に積極的に取り組んでいる背景について考察する。

●資料活用・表現

授業中の観察や以下の作品の分析などにより評価する。

- ・授業中に作成したドイツの略地図
- ・地図帳や教科書の活用状況
- ・その他資料の読み取りや収集の状況
- ・ドイツ新聞作成状況と新聞の内容
- ・ドイツ新聞の内容の発表

●知識・理解

次のような事項に関連した知識を身につけてペーパーテストなどで評価する。

- ・ドイツの位置（日本との位置関係が地図上で示すことができる）
- ・首都名と位置、ドイツ国内のおもな都市の位置（フランクフルト、ミュンヘンなど）
- ・おおまかな地形の様子（正しい断面図を選択できる）
- ・国境を接する国々の国名
- ・EUの加盟国や働きなど
- ・ライン川の流路（通過する国々とフランスとの国境の位置）
- ・ドイツの言語・宗教
- ・日本とドイツの結びつき